



Le Vert
ル・ベール山の会

日記で振り返る

朝日新聞Reライフに、【Q】3年以上続けていることはありますか？の質問に対して【A】94%の読者が「あります。今後も続けたい」と回答。1位は体操・筋トレ・ストレッチで2位が日記でした。

私ことで恐縮ですが、2012年末に退職し2013年から年金生活がスタートしました。それまでも日記は付けていましたが業務日誌の色合いが強く面白くもなるともない。退職を境に日常生活がどのように変わって行くのかを知りたいと思いExcelで毎日の行動を50語以内にメモし始めました。それをベースに1ヶ月の出来事を350語にまとめ一日も途切れることなく続けている。6月を時系列で読み返してみると案外面白い。

2013年：初登山。会社OB3人で荒島岳登山。山頂目前に両脚の痛みと張りで動けなくなってしまった。「ここで待っているので登ってきて！」と言うが、ワングルで鍛えた経験豊富なリーダーが「これで登ったことにしよう」と言う。山頂を背に勝原コースを引き返した。下山中何度もバランスを崩し倒れかけた。勝原スキー場リフト終点付近はセメントの急坂道。後ろ向きに歩いて下山。駐車場に辿り着いた時には夕闇が迫っていた。その後3日間は両脚がパンパンに張り歩行もままならなかったと日記にある。2ヶ月後2泊3日の富士山ツアー。吉田口5合目バス停から登山開始。途中からヘッドライトを点けて夜間登山。下界の街灯りが綺麗。流れ星もハッキリ見え最高の登山気分を味わった。夜9時山小屋に到着。山小屋は超満員。スタッフは横柄で寝床も隣の人と顔が付くほど狭い。夕食も不味く失望した。翌日晴れ。御来光を拝め感激。吉田口頂上まで登るが体力に自信がなくお鉢巡りは断念。後日、ODさんに誘われル・ベール山の会にビジターで参加。2回の審査を経て翌年1月メンバー登録。

2014年：国立文楽劇場で浄瑠璃「三十三間堂棟木由来」観劇。意味も良さも分からず。

2015年：OSさんリーダーのもと坊ガツル・久住連山ハイクに参加。瀬戸内海濃霧発生。フェリーが湍灘沖でストップし別府入港が8時間遅れた。坊ガツルの「法華院温泉山荘」の大風呂は雰囲気最高。翌日熊本県に大雨洪水雷警報発令。登山を諦め大雨のなかTさんと二人で登山口まで戻る。その日はODさんと黒川温泉で一泊。

2016年：囲碁と山で1ヶ月が過ぎたと記している。会社のOB4名で八経ヶ岳に登る。OSさんにガイド役をお願いした。天川村は午前9時まで雷雨で避

難情報が発令されていた。登山者も少なく弥山山小屋は我々5名の貸し切り。翌朝「八経ヶ岳」に登る。天川村の温泉に戻った途端雨が降り出した。奇跡のような天気の中で1泊2日の関西最高峰登山を楽しんだ。

2017年：夫婦で上海旅行。帰国後NHKで「二度目の上海」を放送。また行きたくなり10月ひとりで二度目の上海旅行。帰国日台風21号が日本直撃。HPで春秋航空の運行状況を確認するが中国語の為チンプンカンプン。娘にメール（上海ではLINEは使えない）で様子を調べてもらう。「今のところ飛ぶらしい」とのことで一安心するも上海空港は大混雑。関空も大混雑、徳島県上空で30分待機飛行後着陸。

2018年：フランス・スペイン・オランダ列車ひとり旅。フランス国鉄のストに巻き込まれた。ジブラルタル海峡越しにアフリカ大陸を見た時は感激した。約1ヶ月の旅を終え関空に着いたが、着陸1時間前に大阪で震度6弱の地震が発生したことを機内放送で知った。公共交通機関は全面的に麻痺。いつか帰宅困難者になったとある。

2019年：ドイツ・プラハひとり旅。オペラを初めて観た。字幕は英語表記。読んでいたらどんどん場面が変わる。仕方なく場面だけに集中するが筋がわからない。ミュンヘンでリゾート気分を満喫。ドイツ最高峰のツークシュピッツェ山に登山鉄道とロープウェイで登るが山頂は雲の中で視界がゼロに近い。チロルの山並みも見えない。帰国後、自宅で腰を痛めた。（禍福は）糾える縄の如しと記す。

2020年：自粛生活に慣れたとある。仲間5人でSKYPE車座ミーティング。緊急事態宣言も解除されル・ベール山の会再開。往復30kmを電動アシスト自転車で毎週リハビリに通う。平均年齢80歳の囲碁会は8月末まで休会延長。

このように日記を読み返してみると当時の記憶が蘇る。退職後元気な内が人生のプレミアムタイムらしい。しかし今年（上期）はコロナウィルス騒ぎで逼塞を余儀なくされ大事な時間を無駄に過ごしている感じ。遠出は控えるが、（状況に応じて）近場の外出はするつもり。ただ気合を掛けないと身体が思うように動かない。畢竟自宅にいる時間が圧倒的に多い。

2020. 7. 30 M. I